

外部評価～総括コメント（案）

行政評価委員会は、今年度の評価対象となった市の施策・事業に対して指摘を行ったが、個々の指摘に共通している課題、その他気付いた点について総括コメントとしてまとめる。

(1) 事業効果の客観的な評価について

評価の目的は、事業の成果を検証し、その結果に基づいて今後の方向性や具体的な改善の方向性等を導くことであり、そのためには、多様な指標を用いて、その成果を多角的に評価し、説明する工夫や努力が求められる。

今回、評価対象となった事業の中には、今もなお、その指標設定に改善を要するものも少なくないが、一定の改善が図られたものも多く見受けられ、その取組の前進をうかがうことができた。

しかしながら、その指標にあっても札幌市における取組結果を示すにとどまり、市の目標値が達成されているものであっても、目標自体が費用に比して妥当なものであるのか、より効果的に実施する余地はないのかなどを検証するには、不足する状況にあった。

より効果的な評価を実施するため、札幌市の状況のみならず、他都市が実施する類似事業との比較を用いる等、市の事業効果を客観的に評価し、その結果を市民にわかりやすく伝えるための方策について、検討されたい。

(2) 事業のPRについて

今年度の行政評価（外部評価）における市民参加の取組の一環として実施した市民参加ワークショップでは、その評価対象となった施策・事業における様々なサービスについて、市民にその取組自体が十分に浸透していないことがうかがわれた。

札幌市における多様な取組を考えたとき、今回、評価対象となった施策・事業のみならず、その他の取組においても、同様の状況にあるものが少なくないことが推測される。

については、市民向けサービスを提供する事業の実施にあたっては、市民認知度を高め、市民がより利用しやすい環境づくりについて検討されたい。

(3) 市民参加の取組について

多様な年代から様々な経験を有する前向きで熱心な市民が参加し、市民感覚としての様々な議論が行われたことは、ワークショップ形式を用いた市民参加の取組には、一定の効果があったと思われる。

また、この取組では、その議論の過程においては、市の取組について参加者が日頃感じていることへの疑問や内容への質問も多かったという点を踏まえると、参加者に対して市の事業についての理解を広めるといった効果や市民が自ら意見を述べられる機会を設けられたという意義も大きかったと思われる。

なお、この取組で得られた意見や提案は、行政評価委員会における論点と重なる部分も多かったが、そのまま委員会の指摘とするのではなく、市民ニーズの傾向等という形で受け止め、それらを踏まえた形での指摘を行うこととした。

事業の効率性等も求める行政評価の視点からは、市民から提示された意見や提案の全てを取り入れることができないこともあり、この取組の難しさが感じられた。

これらを踏まえ、行政評価委員会と市民参加の取組の関わりのあるあり方については、今後さらに検討していく必要があると思われる。